

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社 NTTドコモ/株式会社EDUCOM

【ツール名】

English 4skills/スクールライフノート

【ツール名】

オンライン語学学習/発展的な学び

2022年2月

4種の英語力をオンラインで身につける

English 4skills®

イングリッシュフォースキルズ



スマホ
タブレット
PC対応

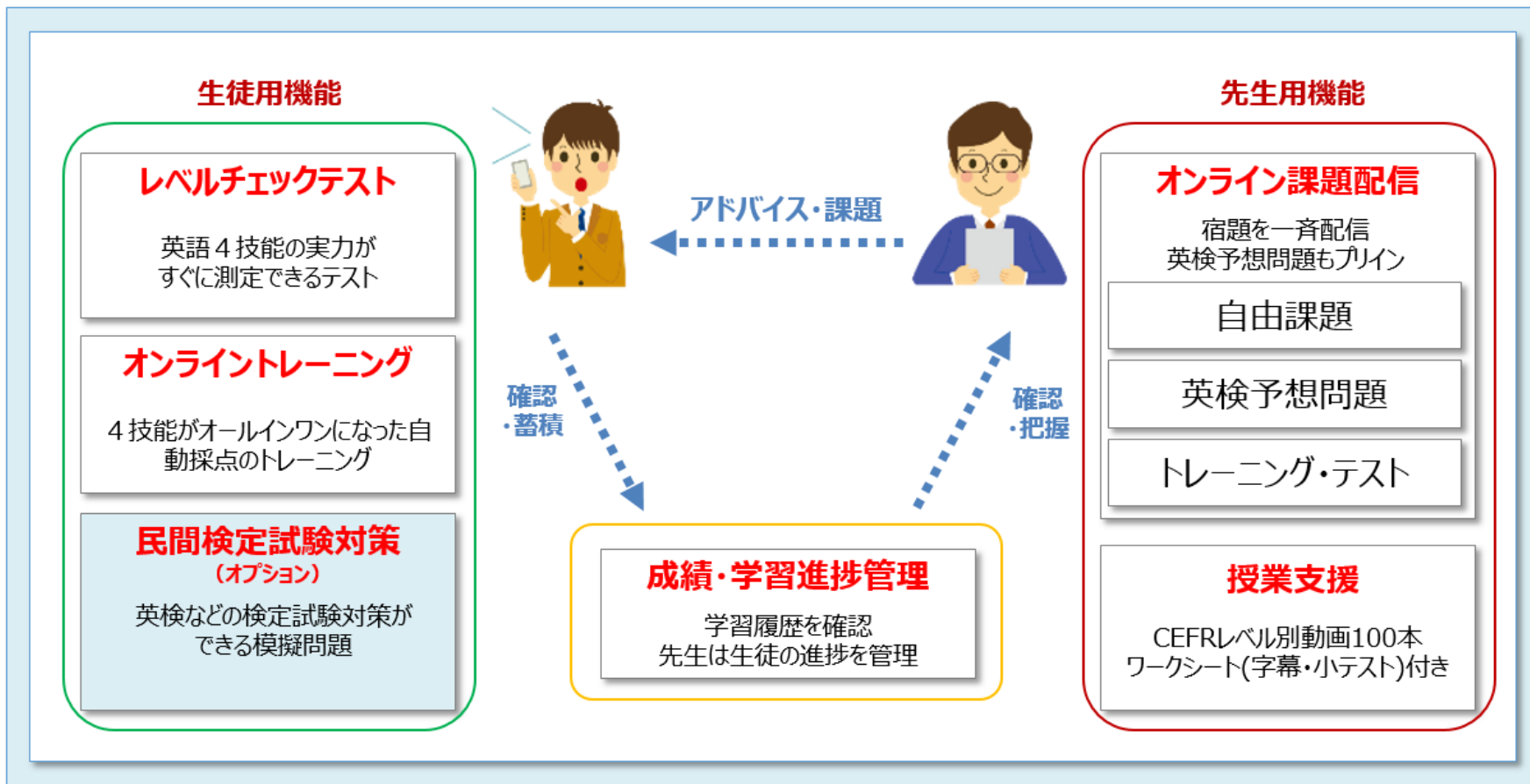




学校向け英語4技能オンライン学習サービス

English 4skills

英語4技能の学習をオンラインで行い、
英語の検定試験対策も行える学校向けサービスです。
※PC・タブレット・スマートフォン対応



Point 1

アダプティブな演習と
レベルチェックテストで
生徒のレベルに合わせた個別最適学習！

Point 2

生徒の学習の継続につながる
先生の見守りをサポートしながら
稼働も削減！

Point 3

英検などの模擬問題による
英語の検定試験対策！

※EdTech導入実証事業においては民間検定試験対策（オプション）は未提供

■ 学校等教育機関の抱える課題

① 遠隔・オンラインの学習環境への対応

GIGAスクール構想はじめとしたICTツールの普及に加え、昨今の新型コロナウイルスの影響からも、学校に通えず自宅等にいる状況であっても学びを止めることなく、いつでもどこでも場所を選ばない新たな学び環境への対応が必要

② 個別最適な学習への対応

発達障害や日本語指導の必要可否、特異な才能を持つ子どもなど多様な児童・生徒が誰一人取り残されることがない社会のために、能力に応じた異年齢・異学年集団の協同学習のような年齢や学年ではなく、児童・生徒の能力に合わせた学習環境の提供が必要

③ 先生の働き方の改善

教員勤務実態調査などからも、定められている勤務開始・終了時刻をオーバーしている実態が取り上げられるなど、世間でも「教師＝多忙で大変な職業」と認知される程、教職員の働き方改革は急務

「English 4skills」の導入で…

①

PC/タブ/スマホ対応で
学校内外問わずいつでも
どこでも学習可能！

②

豊富なコンテンツとAI技術
等により生徒個々の最適な
学習を実現！

③

課題作成・配信/自動採点/
成績管理等も楽々で先生の
業務負担を軽減！

鳥羽市

●主に英語の検定試験対策として活用

【課題】

- ・市として英検受験を推奨しているが、教材の用意や授業内で対策する時間をとれていなかった
- ・教材購入は生徒個人に任せていたため、質や量に差がついてしまった

【活用方法と効果】

- ・English 4skillsを授業の隙間時間や自宅学習に利用することで目標級別の学習をする時間がとれた
- ・授業でまだ習っていない内容でも解説を見ながら生徒が自分で学習を進めることができた
- ・全員が最低限同じレベルの教材で学習できるため不平等の解消に繋がった



和気町

●Chromebookを活用した家庭学習の促進に寄与

【課題】

- ・ 実力を確認するために英語の外部検定試験を年2回受験しているが費用が嵩んでいる
- ・ 導入したChromebookを学校内のみでしか活用できていない

【活用方法と効果】

- ・ トレーニングを利用して習熟度に応じた学習に取り組む
- ・ レベルチェックテストで4技能それぞれのレベルを確認
- ・ テストと日々の学習を同じ教材で完了できるため教員も生徒も管理しやすい
- ・ English 4skillsの家庭学習を目的にChromebookの持ち帰り学習が始まった

■ 補助事業において実施したサポート内容

【サポート体制】

- ・ サービス主管部の本社社員：オンラインサポート、問い合わせ対応
- ・ 全国エリア担当の支社、支店社員：現地訪問サポート、問い合わせ対応

※コロナ禍で東京本社から訪問するのは憚られる情勢であったが、
全国の支社支店と連携し、遠方含む全国の学校に訪問サポートを提供

現地訪問した社員(上段中央)がオンラインで接続



【実施したサポート】

初期設定・セットアップ

- ・ 利用者もしくは導入先の管理者が行う各種設定を代行
 - ・ 学年、クラス、グループの事前設定、利用者情報の一括登録、等
- ※利用開始前に実施していただく設定を、本事業に於いては円滑な利用開始を目指し代行実施サポート

操作・利用方法等についての導入研修/利活用促進研修

- ・ 実際の画面操作を行いながら操作方法のレクチャー
 - ・ 課題の作成・配信、成績管理画面の見方、生徒の利用する学習コンテンツの体験、等
- ※要望のあった学校には追加研修を実施し、より具体的な活用方法について紹介

その他

- ・ 定例会開催による自治体・学校・事業者の3者による活用の進捗確認と振り返りの実施
- ※定期的に学習利用状況データ等を提示し、課題や要望等を確認した上で3者それぞれが必要な行動をすり合わせ

■ 補助事業において実施したサポート内容

● 実証自治体、学校を集めての情報共有・情報交換のためのオンライン意見交換会を開催



【実施概要】

- ・ 2021年12月11日（土）
- ・ オンラインミーティング形式
- ・ 希望者のみ参加
- ・ EdTech専門家を招いての講演と参加者同士のグループディスカッション
- ・ 事前に全参加校にアンケート調査を依頼し、課題などを洗い出し、情報共有

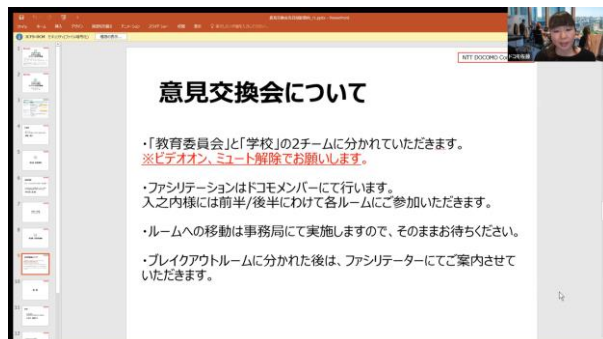


【目的】

EdTech実証に参加中の自治体・学校を対象にEdTechの現場活用の最新の情報提供と交流の機会を提供

【参加者】

8名（自治体4名・学校4名）



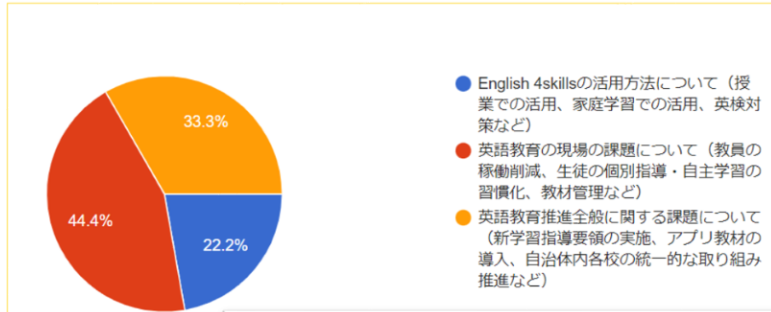
【講演者・ファシリテーター】

平井聡一郎氏（文部科学省ICT活用教育アドバイザー）
入之内昌徳氏（茨城県教育庁 学校教育部 義務教育課 指導主事）
NTTドコモEnglish 4skills担当（奥野・川本・吉永・佐藤）

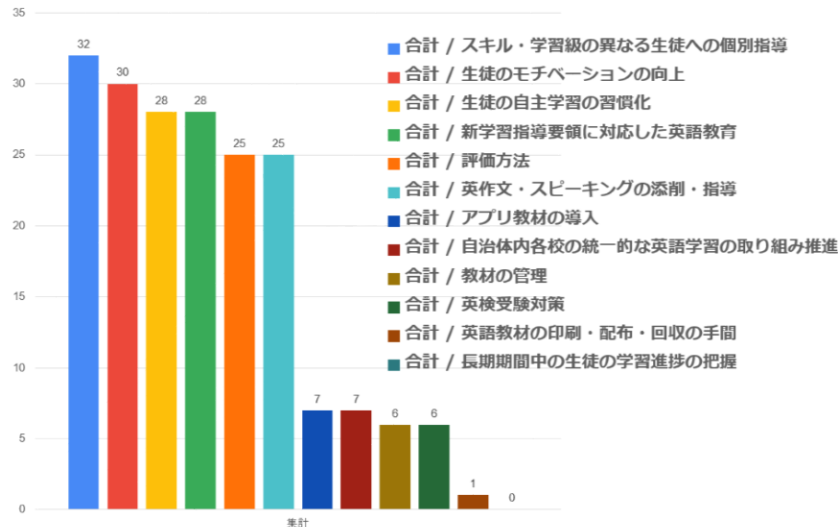
■ 補助事業において実施したサポート内容

● 意見交換会の事前アンケートの結果共有 (n=83)

意見交換会でディスカッションしたいこと



英語教育で課題に感じていること



これまでに取り組まれた効果的な英語教育の取り組み

【教育委員会】

- ・ 小中合同研修での学習内容の共有
- ・ 町による英検受験料の補助

【学校】

- ・ Googleサイトをポートフォリオとして活用し、授業の終わりに本時に学習した内容を簡単にまとめさせている。また、次時の導入では自分のサイトを振り返り、本時のめあてに繋げる等の活用もできる。生徒自身が自分の学びを整理整頓でき、評価のしやすさにも繋がる。
- ・ Keynoteを使っておすすめの色や動物について紹介する活動
- ・ 遠隔授業による他校との英語でのコミュニケーション パフォーマンステスト
- ・ Small Talk (既習事項を使って話す活動)
- ・ 授業のSmall Talkを、家庭学習で取り組ませ、タブレットで添削をする。
- ・ ALTとの会話練習
- ・ フォニックス
- ・ 語彙力を高めるために毎週単語運動

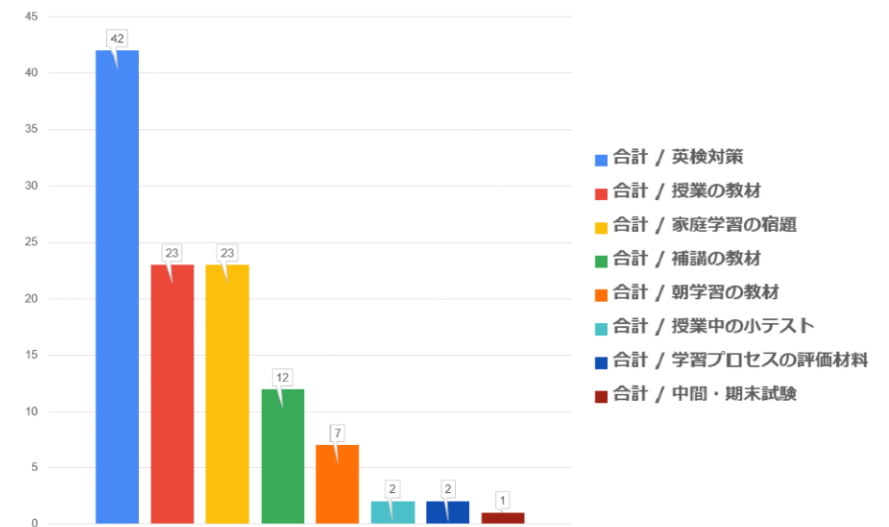
STEAM教育

アクティブラーニング

PBL

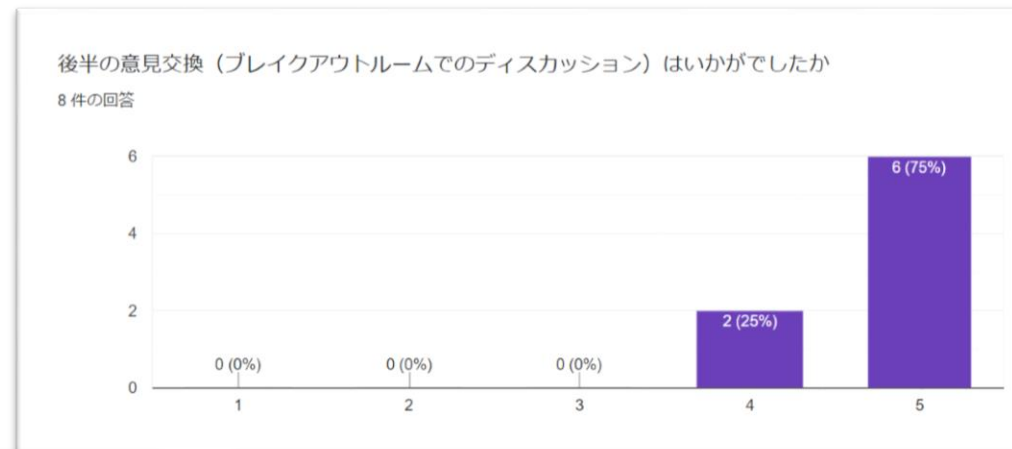
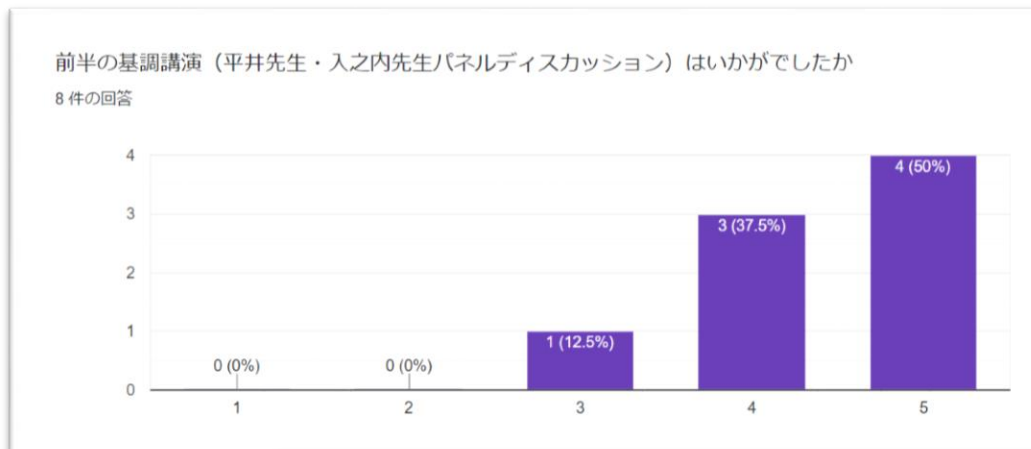
パフォーマンステスト

English 4skillsをどのように活用していますか



■ 補助事業において実施したサポート内容

● 意見交換会の事後アンケート（n=8）：講演・グループディスカッションの満足度「高」



上記回答の理由をお聞かせください

8件の回答

これからの英語教育の方向性について確認することができた。

新たな考え方の発見や、今やっていることが何につながるかを認識することができたから。

今の教育の流れといった概論的な所から話していただいたので、非常に分かりやすく、E4Sの利用の必然性に結びつけることができた。

他市町の実践を知ることができた

将来の英語教育と、4skillsのコラボレーションをイメージできたため。

ICTを活用して個別最適な指導をする必要性を強く感じました。

入之内先生のお話が非常に参考になりました。

すみません。第2部からの参加のため、真ん中にさせていただきます。

上記回答の理由をお聞かせください

7件の回答

質問や意見を述べることができ、また回答をいただくことができた。

全国の先生方との交流はとても貴重で、なかなか得られる経験ではないと思ったから。学ぶことがたくさんあったから。

京都市の実践発表が非常に面白く、とても勉強になった。自治体として取り組んでいる方の実践発表は、非常に面白く、大変参考になった。

周囲の学校ではこのアプリを使用していないため。具体的な使用方法がわかった。

いまだに活用しきれていない感があったのだが、他校の実践を聞いたり、課題に感じていることを聞くと今後どうしていったらよいか少し期待が持てたように感じました。

他の自治体での実践がわかりました。今後の参考にさせていただきます。

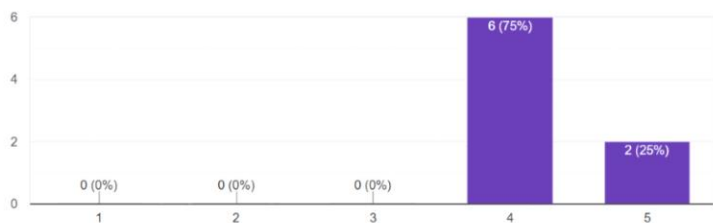
好事例だけでなく、気をつけるべきポイントについても教えていただくことができたから。

■ 補助事業において実施したサポート内容

● 意見交換会の事後アンケート（n=8）：新しい情報を吸収でき、ICT活用の推進に役立ちそう（総評）

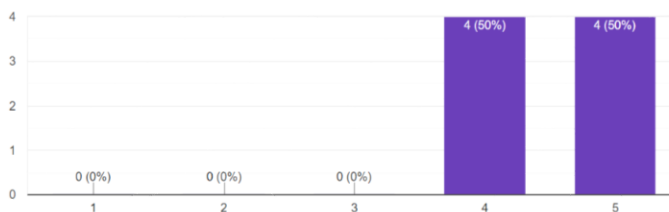
本日の意見交換会によって今後English 4skillsをよりうまく活用できそうですか

8件の回答



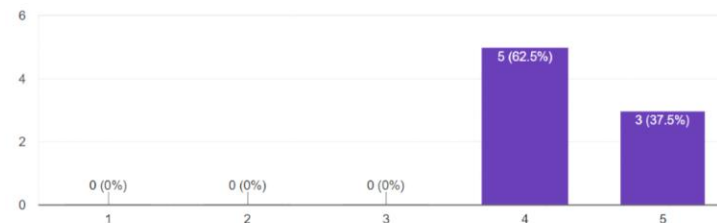
本日の意見交換会によって今後のICT・英語の活用促進に向けた気づきとなる新たな情報等を得られましたか？

8件の回答



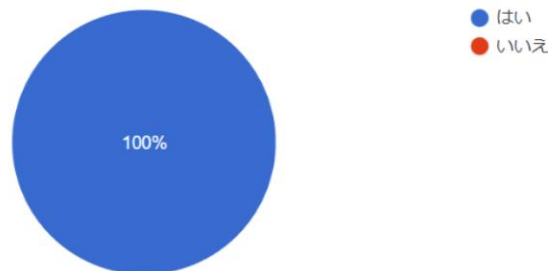
今後、他の自治体や学校との交流の機会があれば参加したいと思いますか

8件の回答



今後の交流を目的に、本日の参加者に連絡先（メールアドレス）を共有してもよいですか

8件の回答



ドコモに対して、またはサービス（English 4skills）への要望やご意見があればお聞かせください

3件の回答

生徒や保護者、他教科の同僚、管理職に向けての説明資料などいただき、啓発・情報共有をしたい。

質問や、設備等何かあったときに素早く、丁寧に対応していただきとても感謝しています。今日のような交流会を開催していただき、本当にありがとうございました。

本日はありがとうございました。

●2自治体 7校の中学校へ導入

自治体名	学校名	利用人数 (English 4skills)	利用人数 (スクールライフノート)
鳥羽市教育委員会	鳥羽市立鳥羽東中学校	246名	248名
鳥羽市教育委員会	鳥羽市立答志中学校	27名	28名
鳥羽市教育委員会	鳥羽市立神島中学校	13名	14名
鳥羽市教育委員会	鳥羽市立加茂中学校	64名	64名
鳥羽市教育委員会	鳥羽市立長岡中学校	43名	43名
和気町教育委員会	和気町立和気中学校	240名	240名
和気町教育委員会	和気町立佐伯中学校	58名	58名

(参考) NTTドコモ プレスリリース

▼2021/8/24

https://www.nttdocomo.co.jp/binary/pdf/info/news_release/topics_210824_00.pdf

▼2020/8/13

https://www.nttdocomo.co.jp/binary/pdf/info/news_release/topics_200813_00.pdf

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

●約4万のトレーニング取組実績（うち正答率58.7%）

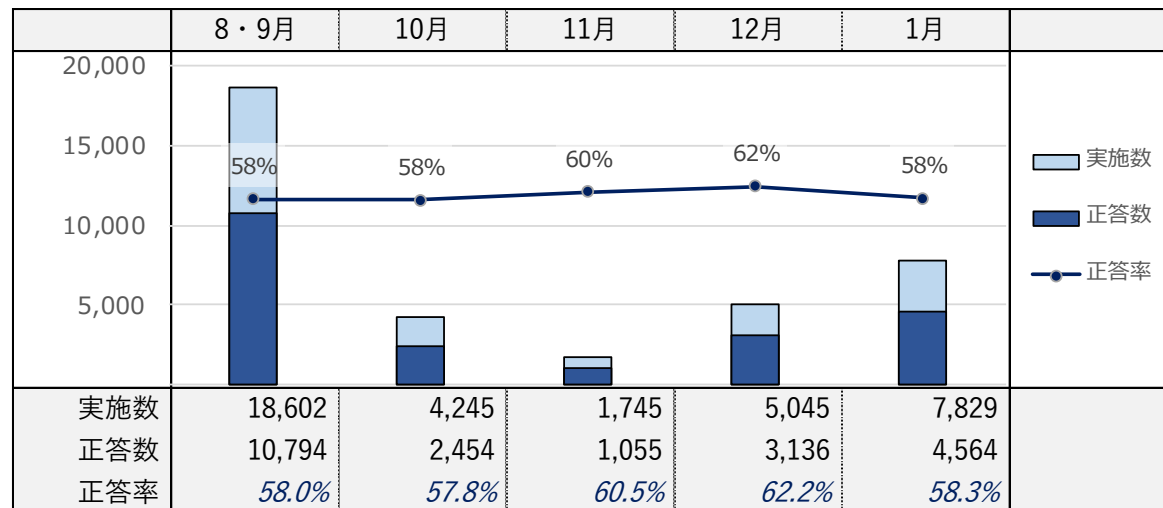
トレーニング 取組状況（コンソーシアムサービス別）

[集計期間]2021/8/23~2022/1/23

コンソーシアムサービス名	学校数	全体		1人当たり平均		正答率
		実施数	正答数	実施数	正答数	
EdTech実証校 計	112	1,666,368	1,038,467	59.6	37.1	62.3%
English 4skills × DONGRI®	87	1,381,310	867,081	62.3	39.1	62.8%
English 4skills × Libry	18	247,592	149,383	48.3	29.1	60.3%
English 4skills × スクールライフノート	7	37,466	22,003	57.5	33.7	58.7%

トレーニング実施数,正答率 [English 4skills × スクールライフノート利用校/月別推移]

[集計期間]2021/8/23~2022/1/23



■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

●約4万のトレーニング実績のうち、技能別にみると「Writing」が約1.6万と特に活用が多い

技能別トレーニング 取組状況（コンソーシアムサービス別）

[集計期間]2021/8/23～2022/1/23

コンソーシアムサービス名	総実施数						1人当たり平均実施数					
	全技能	Speaking	Writing	Listening	Reading	文法	全技能	Speaking	Writing	Listening	Reading	文法
EdTech実証校 計	1,666,368	294,029	514,096	113,896	377,778	366,569	59.6	10.5	18.4	4.1	13.5	13.1
English 4skills×DONGRI®	1,381,310	261,598	394,843	100,102	314,964	309,803	62.3	11.8	17.8	4.5	14.2	14.0
English 4skills×Libry	247,592	26,707	103,489	11,604	55,914	49,878	48.3	5.2	20.2	2.3	10.9	9.7
English 4skills×スクールライフノート	37,466	5,724	15,764	2,190	6,900	6,888	57.5	8.8	24.2	3.4	10.6	10.6

技能別トレーニング 取組状況 [English 4skills×スクールライフノート利用校/月別推移]

[集計期間]2021/8/23～2022/1/23

	全技能	Speaking	Writing	Listening	Reading	文法
全期間計	37,466	5,724	15,764	2,190	6,900	6,888
8・9月	18,602	2,343	7,498	886	3,703	4,172
10月	4,245	916	1,606	388	623	712
11月	1,745	138	775	114	387	331
12月	5,045	950	2,683	178	678	556
1月	7,829	1,377	3,202	624	1,509	1,117

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

●約8万の課題配信実績（うち正答率は49.2%）

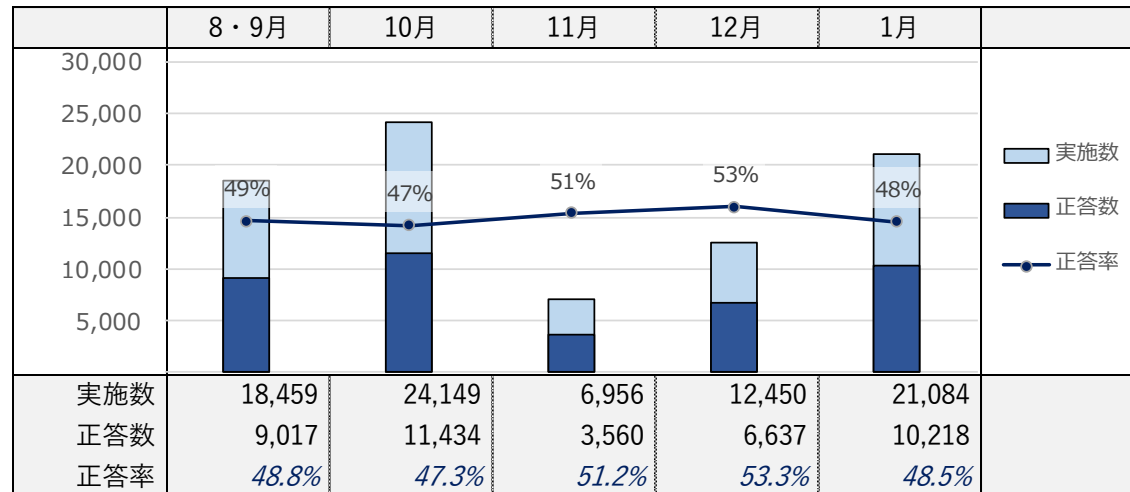
課題配信 取組状況（コンソーシアムサービス別）

[集計期間]2021/8/23~2022/1/23

コンソーシアムサービス名	学校数	全体		1人当たり平均		正答率
		実施数	正答数	実施数	正答数	
EdTech実証校 計	112	1,648,573	847,101	59.0	30.3	51.4%
English 4skills × DONGRI®	87	1,229,351	644,180	55.4	29.0	52.4%
English 4skills × Libry	18	336,124	162,055	65.5	31.6	48.2%
English 4skills × スクールライフノート	7	83,098	40,866	127.5	62.7	49.2%

課題配信実施数,正答率 [English 4skills × スクールライフノート利用校/月別推移]

[集計期間]2021/8/23~2022/1/23



■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

●約8万の課題配信実績のうち、技能別にみると「Listening」が約3万と特に活用が多い

課題配信 技能別取組状況（コンソーシアムサービス別）

[集計期間]2021/8/23～2022/1/23

コンソーシアムサービス名	総実施数						1人当たり平均実施数					
	全技能	Speaking	Writing	Listening	Reading	文法・単語	全技能	Speaking	Writing	Listening	Reading	文法・単語
EdTech実証校 計	1,648,573	229,245	252,919	525,368	270,565	370,476	59.0	8.2	9.0	18.8	9.7	13.3
English 4skills×DONGRI®	1,229,351	157,089	182,778	377,960	198,310	313,214	55.4	7.1	8.2	17.0	8.9	14.1
English 4skills×Libry	336,124	53,416	54,429	114,556	57,278	56,445	65.5	10.4	10.6	22.3	11.2	11.0
English 4skills×スクールライフノート	83,098	18,740	15,712	32,852	14,977	817	127.5	28.7	24.1	50.4	23.0	1.3

課題配信 技能別取組状況 [English 4skills×スクールライフノート利用校/月別推移]

[集計期間]2021/8/23～2022/1/23

	全技能	Speaking	Writing	Listening	Reading	文法・単語
全期間計	83,098	18,740	15,712	32,852	14,977	817
8・9月	18,459	5,853	3,225	5,146	4,235	0
10月	24,149	5,158	4,630	9,570	4,769	22
11月	6,956	1,625	1,195	2,902	1,234	0
12月	12,450	2,217	2,821	5,596	1,727	89
1月	21,084	3,887	3,841	9,638	3,012	706

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

● 課題配信種別にみると、各技能別・用途別に配信可能なトレーニング・テストの活用が多い

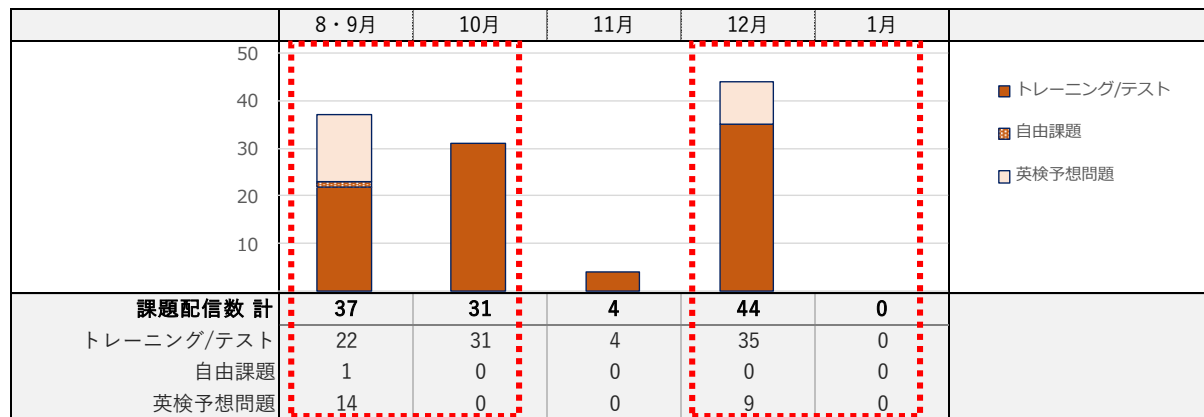
課題配信状況（コンソーシアムサービス別）

[集計期間]2021/8/23～2022/1/23

コンソーシアムサービス名	学校数	課題配信数計	トレーニング テスト	自由課題	英検予想問題
EdTech実証校 計	112	1,596	1,500	1	95
English 4skills×DONGRI®	87	1,148	1,092	0	56
English 4skills×Libry	18	332	316	0	16
English 4skills×スクールライフノート	7	116	92	1	23

課題配信状況 [English 4skills×スクールライフノート利用校/月別推移]

[集計期間]2021/8/23～2022/1/23



※事業実施の前半と後半に積極的に課題配信をご利用いただけるよう促進を実施した期間

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

【当初想定した課題に対する解決】

①遠隔・オンラインの学習環境への対応

(生徒) 先生からの宿題や冬休み課題の時も、自分が好きな時に好きな時間で学習ができた。

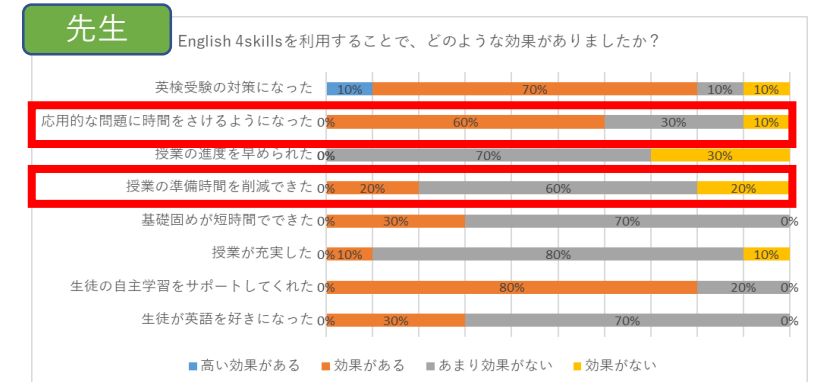
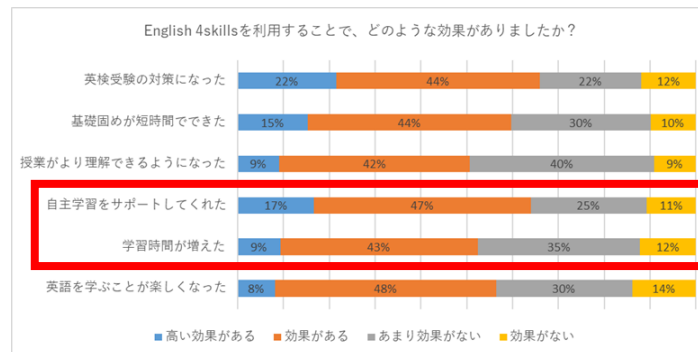
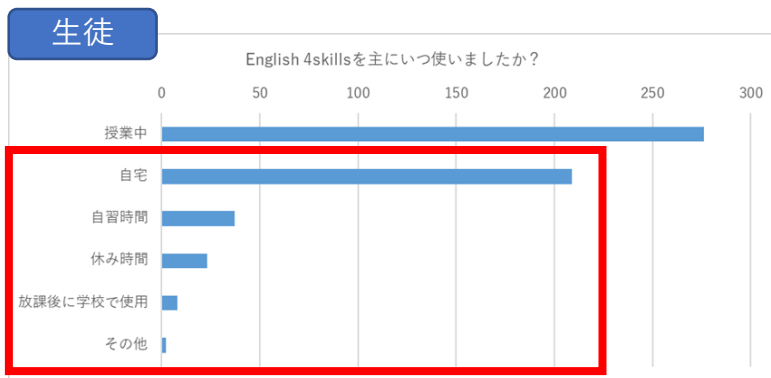
(先生) 学校の授業中に配信した課題を、時間内に解き終わることができなかった生徒が、家庭でも続きを解き進めてくれ、また、その解答を教師側でも遠隔ですぐに確認することができた。

※2022年1月実施アンケートの自由記述コメントより一部抜粋

●生徒：実証校の中には端末持ち帰りNGの学校もあった中でも自宅利用の回答も多く、学習時間が増えたという回答が半数以上得られた。

●先生：E4sを通じた遠隔学習により授業時間の使い方も良い変化があった旨の回答が得られた。

👉①の課題に対して、生徒・先生双方で一定の効果が確認できた。



■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

【当初想定した課題に対する解決】

②個別最適な学習への対応

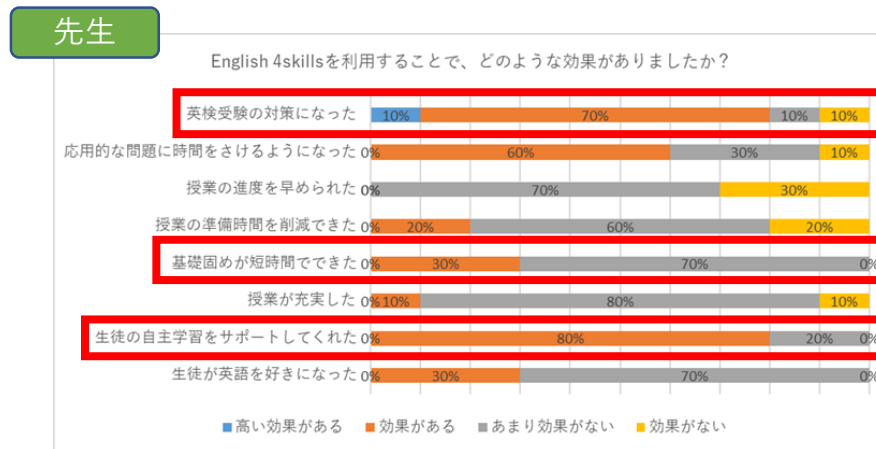
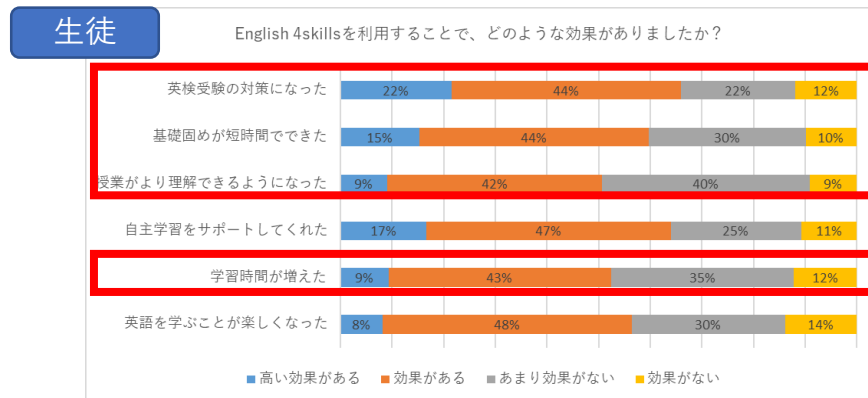
(生徒) 自分の苦手な話すトレーニングも一人で練習ができてすぐ判定も出るので取り組みやすかった。
また、ゲーム感覚で楽しみながら解き進められて、気づくと目標以外のレベルにも挑戦していた。

(先生) 生徒が自分で学習する級を選べるので学習状況に応じた個別最適な学びにつなげることができた。
また、「アダプティブ」配信活用で、英語が苦手な生徒も無理なく前向きに課題に取り組めており、特に英検取得をめざす生徒たちは自分の目標に向かい、積極的に取り組んでいた。

※2022年1月実施アンケートの自由記述コメントより一部抜粋

- 生徒：基礎学習と理解促進など、自身の目標や進度に応じた学習に繋がったとされる回答が6割以上。
- 先生：生徒の自主学習サポートツールとして役立った旨の回答を8割以上の先生から得た。

②の課題に対して、生徒・先生双方で高い効果が確認できた。



【当初想定した課題に対する解決】

③先生の働き方の改善

(先生) Speakingは教師が教室に1人の場合、生徒一人一人個別に確認できる時間が限られていたが、English 4skills を活用すれば、教員の負担なく生徒個別対応の時間を確保できとても助かった。Listeningに関しては、音源探しや録音時間が不要となり、教材準備の大幅な時間軽減につながった。

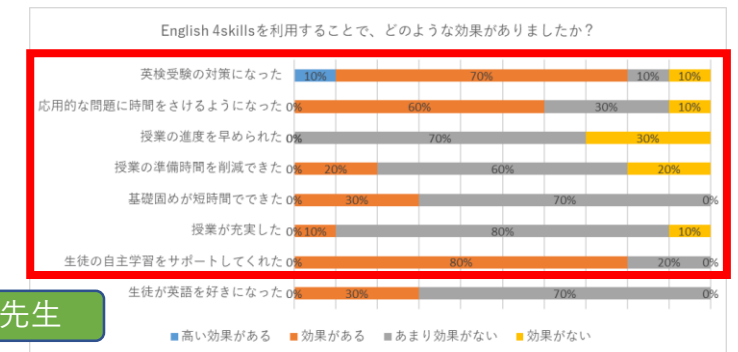
(先生) 一斉に課題配信する場合、設定が非常に簡単でありがたい。また、「アダプティブ」配信することで生徒の状況に合った課題配信ができるため、多くの種類の課題を作る必要がなくなった。特にSpeakingやListeningの課題作成が大変だったが、English 4skillsの導入で負担が軽減した。

(先生) 課題の提出状況や解答内容の確認にも役立っており、生徒の学習進捗状況も一目で分かりやすく、集計などを行わなくても済む。

※2022年1月実施アンケートの自由記述コメントより一部抜粋

●先生：負担の大きかった教材の作成やその準備時間、限られた時間内に生徒一人一人の状況確認を行う時間や負担が軽減された旨の自由記述回答が多かった。

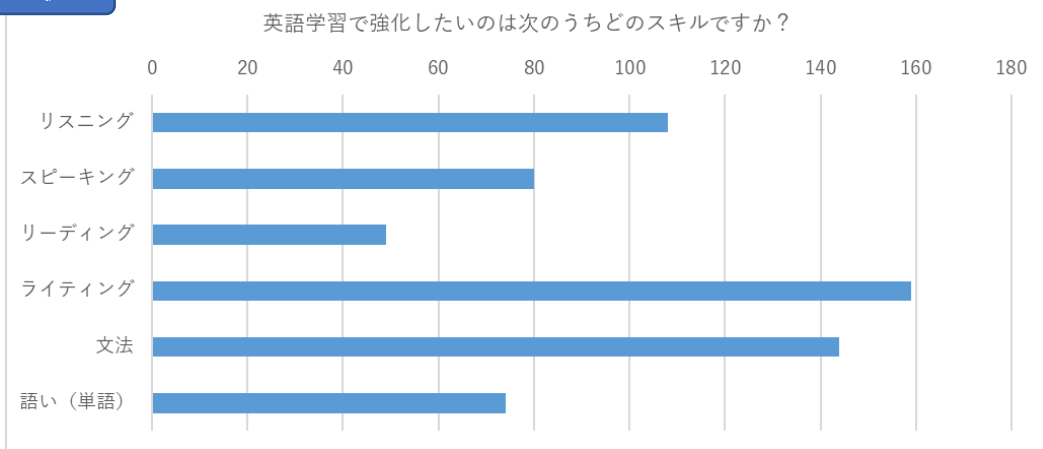
③の課題に対して高い効果が確認できた。



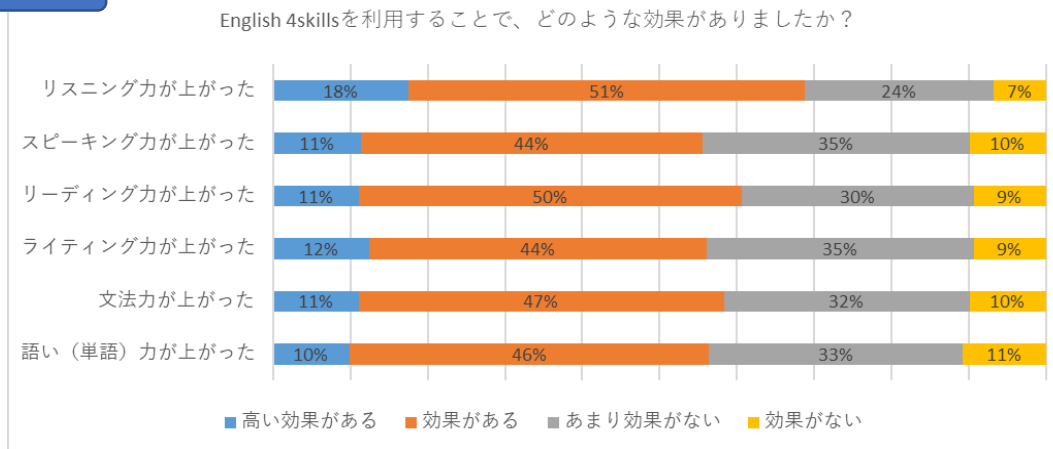
■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

● 生徒・先生ともに半数以上が「各技能のスキル強化に一定の効果あり」と回答

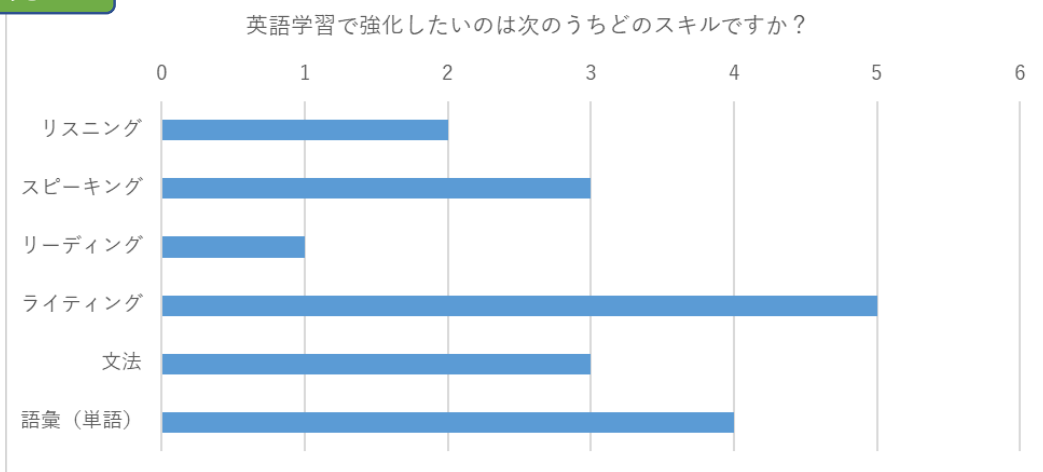
生徒



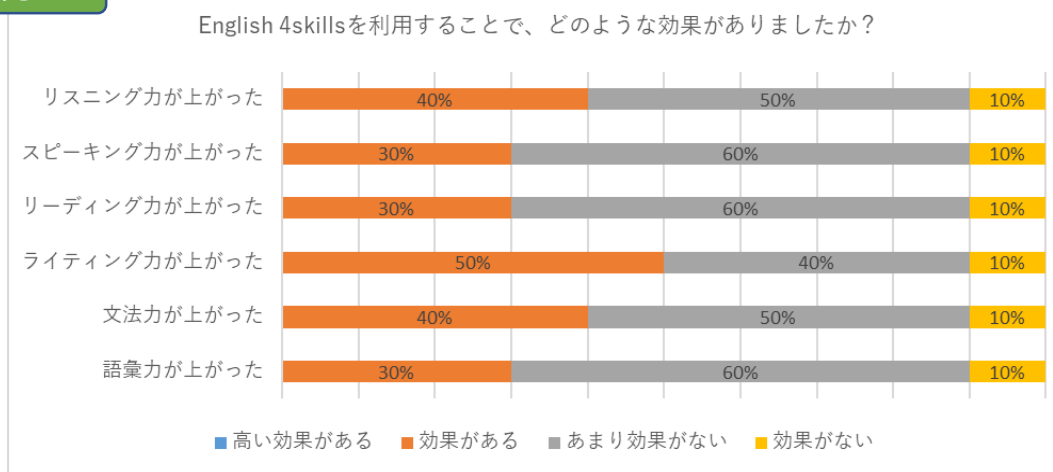
生徒



先生

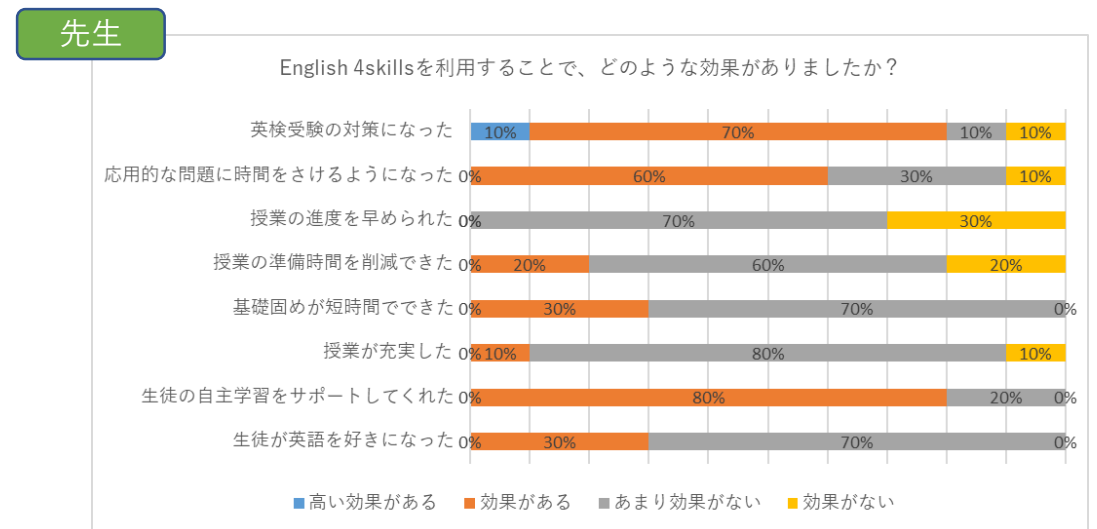
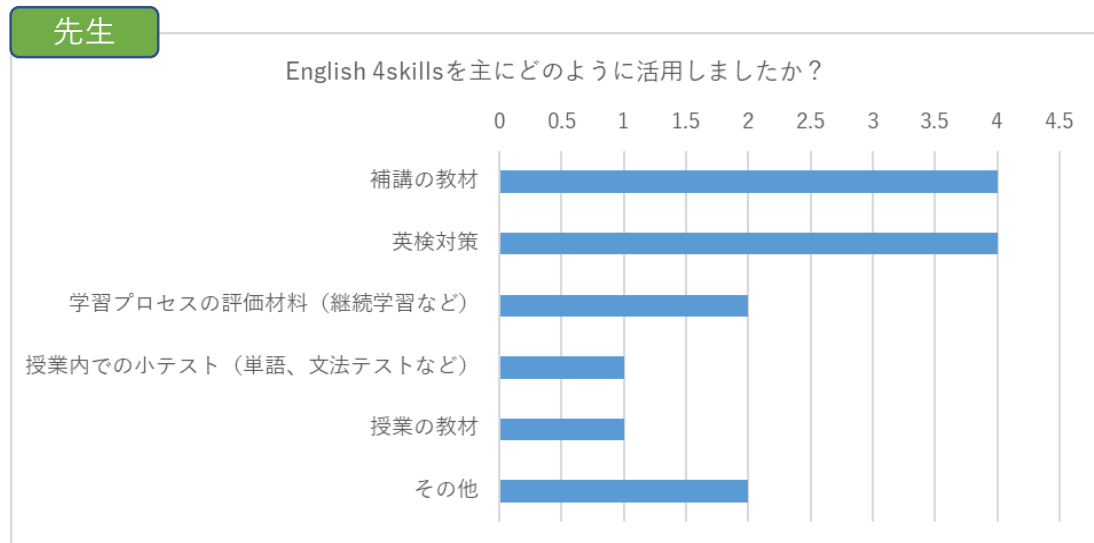
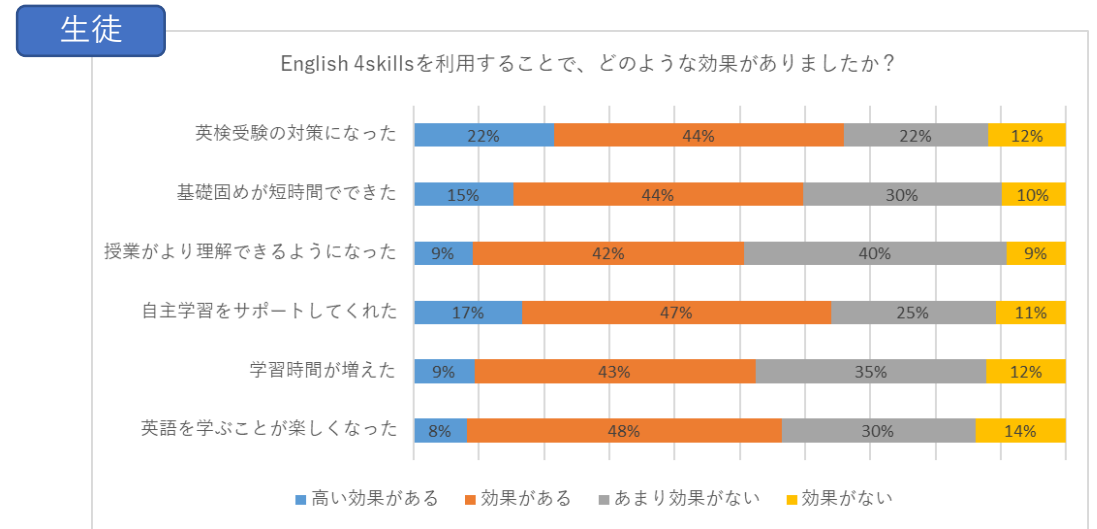
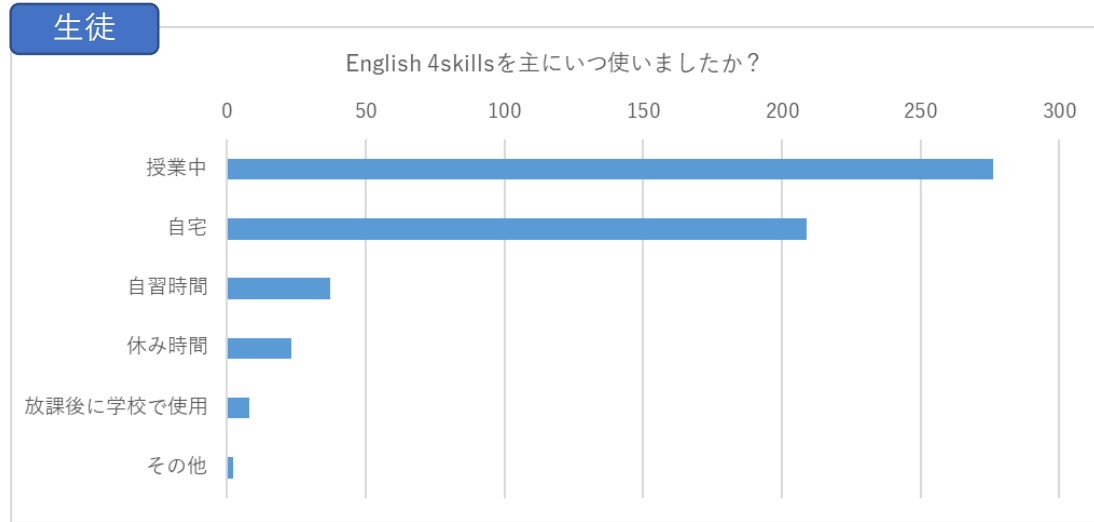


先生



■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

● 授業利用以外にも、生徒・先生ともに半数以上が「サポートツールとして一定の効果あり」と回答

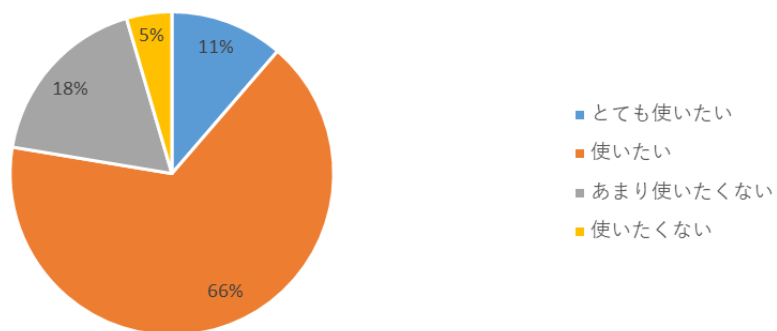


■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

●生徒・先生ともに約8割が、「今後もEnglish 4skillsを継続的に使用したい」と回答

生徒

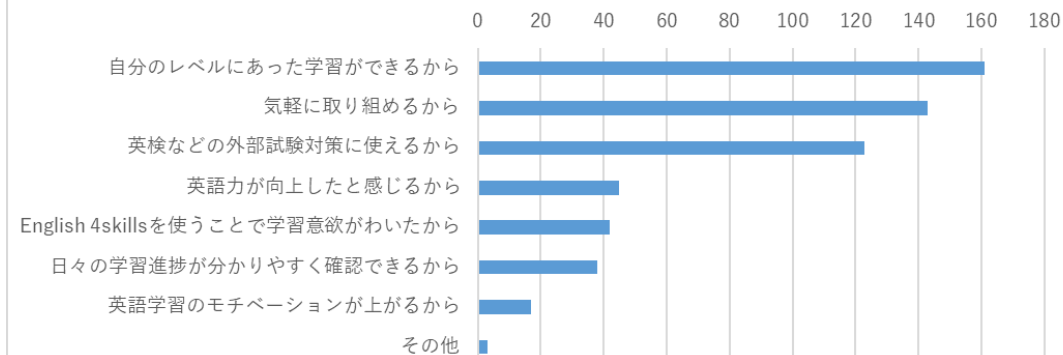
今後もEnglish 4skillsを使いたいですか？



生徒

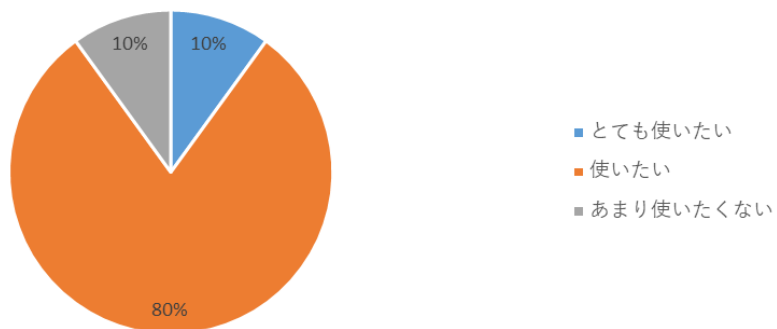
「とても使いたい」「使いたい」と答えた方に伺います。

その主な理由を教えてください。



先生

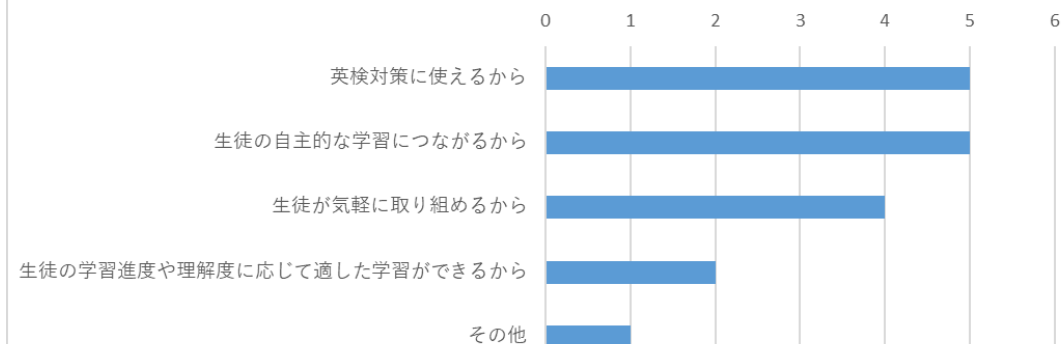
これからもEnglish 4killsを使いたいと思いますか？



先生

「とても使いたい」「使いたい」と答えた方に伺います。

その主な理由を教えてください。



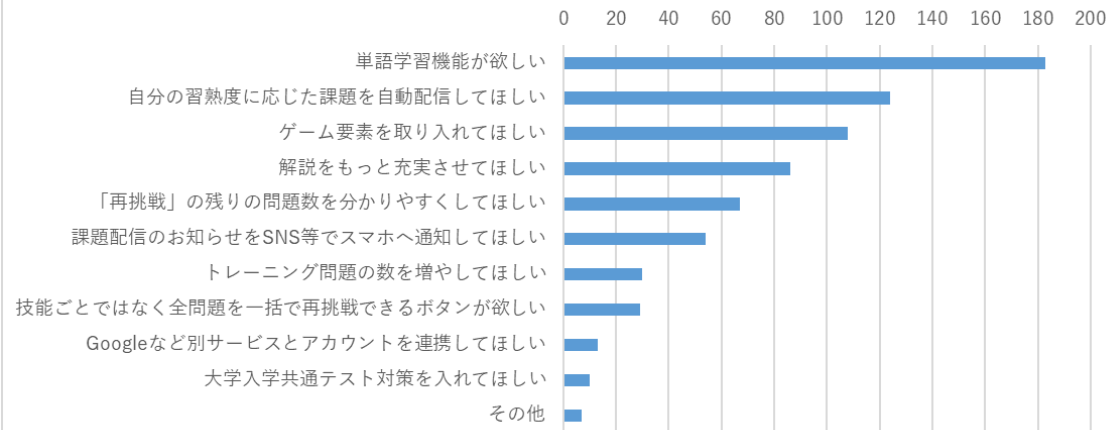
■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

●生徒は学習意欲の観点から、“単語機能”や“ゲーム要素の取り入れ”への要望が多い

●先生は授業活用や負担軽減の観点から、“教科書連動”や“解説の充実”、自動配信等の要望が多い

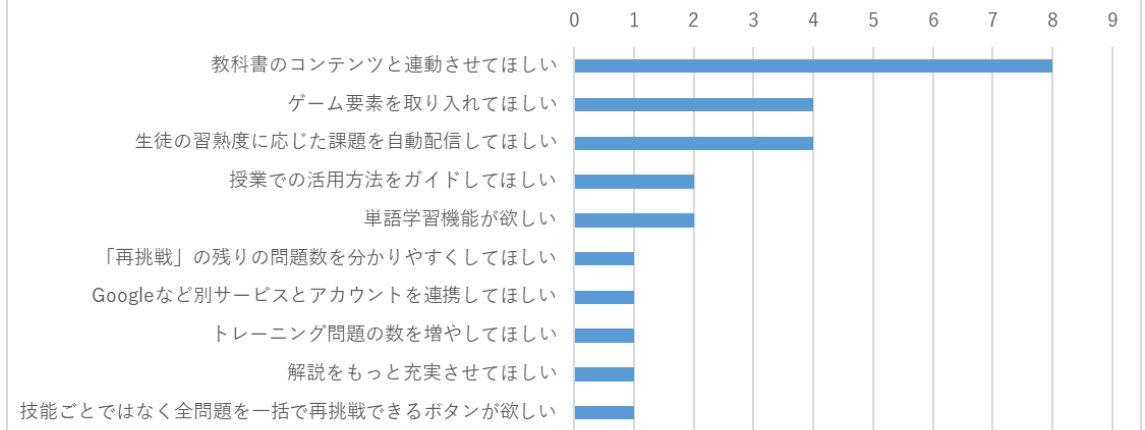
生徒

どういったアプリ機能、サービス内容であればもっと使いたいですか？



先生

どういったアプリ機能、サービス内容であればもっと使いたいですか？



本実証で得られた全国の生徒、先生の貴重なご意見を更なる機能拡充とサービス品質改善に繋げていく

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

【課題（期間/体制面）】

1. 公募要領発出から申請期間がタイトで、事業者⇔自治体⇔学校間の実証計画に対する合意形成が不十分なケースや当事者ごとに認識のバラつきがあり、事業者から積極的な導入サポートが難しいケースあり
2. コロナ影響による変則的な予定変更だけでなく、導入先によってICT支援員有無やICT活用キーマン先生の有無にも左右され、コンソーシアムで提供する複数ツールの同時並行での活用が難しいケースあり

改善策⇒

- 自治体+学校との3者による次年度を見据えた導入前の綿密な実証計画すり合わせ
- ツール特性とサポート範囲を踏まえた実証校選定、合意形成、実証取組みの優先順位引き上げ
- 3者定例会開催による伴走（進捗状況確認・振り返り、課題洗い出し、事例共有等…）

【課題（環境/運用面）】

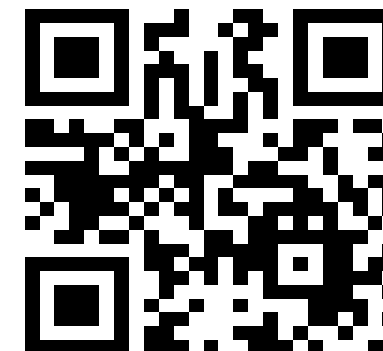
1. PCやタブレットが整備されていても、持ち帰り禁止となっていることで授業などの在校時のみの限定的な利用に制限され、宿題利用が不可であったり、児童・生徒の自発的な学びの機会を阻害するケースあり
2. 音源や発話などの音声を利用する英語という教科性質上も、イヤホンやヘッドホンが未配備（配備遅れ含む）で、ツールの一部しか利用が促せないケースあり

改善策⇒

- 持ち帰りの許可をいただくか、難しい場合は校内での朝学習などの授業以外でのICT活用時間を拡大し、個別最適な学びの機会を増やす柔軟な対応を働きかけ
- 公平性担保のためにも、必要機器としてイヤホンやヘッドホン配備を促しつつ、すぐの改善が至らない場合は、実証期間中のみ事業者貸与等でツールをフル活用できるようにサポート

■ 会社概要

- 社名 株式会社NTTドコモ
NTT DOCOMO, INC.
- 代表取締役社長 井伊 基之
- 所在地 東京都千代田区永田町2丁目11番1号 山王パークタワー
- 資本金 949,679（百万円）（2021年3月31日現在）
- 従業員数 8,433名（当社グループ28,113名）（2021年3月31日現在）
- 主な事業内容
 - <通信事業>
携帯電話サービス（5Gサービス、LTE（Xi）サービス、FOMAサービス）、光ブロードバンドサービス、衛星電話サービス、国際サービス、各サービスの端末機器販売など
 - <スマートライフ事業>
動画配信・音楽配信・電子書籍サービス等のdマーケットを通じたサービス、金融・決済サービス、ショッピングサービス、生活関連サービスなど
 - <その他の事業>
ケータイ補償サービス、法人IoT、システム開発・販売・保守受託など
- ホームページ <https://www.nttdocomo.co.jp/>
- English 4skills サービス概要、操作方法などに関するお問い合わせ先
 - ・ドコモ スマートホームセンター 0120-085-360（9:00-20:00 年中無休）
 - ・English 4skills webサイト <https://e4skills.com/>（お問い合わせフォームより）



【EdTech導入補助金2021活用による成果】

- 日頃、自社のみで行うツール提案も、コンソーシアムならではの複数企業・ツールと連携した提案活動により、新規・既存顧客含め新たな切り口と課題の発見に繋がった。
- 収支観点からも各自治体や学校が要望する期間でトライアル利用、検証ができないケースも多いが補助金を活用することで、事業者も導入先も双方負担が軽減され、ツール検討に踏み出せ、最終的には次年度の予算確保・本格導入に繋がった。
- 補助金を活用してツールの利用校が増えることで見えてくる新たな課題（サービス性改善、保守運用強化の必要性等）も見え、自社ツールを見つめ直す機会に繋がった。

【EdTech導入補助金2021活用による課題】

- 2020、2021年度の補助金ともに夏以降の補助金採択で、ツール利用・検証が2学期以降にしか行えないが、次年度本格導入に向けた予算調整・提案は、実証が始まる前（1学期中）の時期には意思決定が必要な場合も多いため、議会付議を遅らせることが不可の場合は、有償契約化までの空白期間を発生させない新たな契約方法の整備や運用対処等、様々な切り口での検討が必要。

スクールライフノート (心と学びの記録・振り返り支援システム)



かんたん操作で毎日登録
一人ひとりの元気を可視化

心の天気

児童生徒が毎日の気持ちを天気に加え、「心の天気」として入力。児童生徒が発する心のサインを読み取り、気になる児童生徒の天気を過去にさかのぼって確認することで、細やかかつ迅速なケアにつなげることができます。

1 気持ちを天気に例えて登録



2 パッと手元でわかる



“もっと元気になる”
サイクル

4 指導・支援につながる



3 心の変化やサインを発見



導入校での活用例

-  児童生徒への声掛け練習に
-  児童生徒との会話のきっかけ作りに
-  不登校傾向の早期発見に
-  学校・学校経営のパロメーターに

メモ帳活用で

「コミュニケーションツール」「振り返りツール」に

児童生徒は天気を登録する際にひとことメモを入力できます。「メモ欄に好きな動物を書いてみよう」「今は、はまっていることを書こう」など、メモ欄への入力を促すことで、普段あまり積極的に話しかけてこない児童生徒への理解が深まったり、会話のきっかけ作りになります。また、学校行事や部活動の振り返りをメモ欄に入力することで「振り返りツール」として活用いただいています。



授業での
自らの学びを可視化

学びの天気

児童生徒が授業ごとに自らの学びを天気に加え、「学びの天気」として入力。各授業ごとの児童生徒の学びをひとめで把握することができ、個に応じた支援・指導だけでなく、授業の組み立てにお役立ていただけます。

1 一人ひとりの学びの振り返りを可視化



児童生徒が各授業での学びの振り返りを天気登録。各授業ごとにグラフで天気割合を確認できます。



2 天気と振り返りから児童生徒の学びの様子をつかむ



効果

「あめ」や「かみなり」マークから、児童生徒が扱った「振り返り」やこれまでの傾向をもとに理由にアプローチ。次時の授業づくりのヒントとしてご利用いただけます。

「あめ」や「かみなり」マークから、児童生徒が扱った「振り返り」やこれまでの傾向をもとに理由にアプローチ。次時の授業づくりのヒントとしてご利用いただけます。

ペアでの話し合いで考えを深めた子どもが増えてきたようだ。もう少しペアでの話し合いを増やしてみよう。

開発者から

子どもと先生がつながるための1つとして

「スクールライフノート」導入校の先生方から、「子どもたちの心がよくなるようになった」「自分から話をしない子どもの内面がわかり、こちらから声をかけることが多くなった」「心の天気の変化が子どもとコミュニケーションをきっかけになっている」「子ども自身が自分自身を見つめる機会にもなっていて、こうした機能は今までなかったので貴重」「心の天気入力、一人一台端末の日常活用に無理なく取り組めて満足！」など、多くの活用の声が私のところまで届いています。開発者として、大変嬉しい限りです。

特長

- ・ 教科に縛られず学校生活全体で活用できる
- ・ 非認知スキルを向上させ「学びに向かう力」を育成

活用場面

- ・ 朝の「心の天気」登録で日々の端末活用のきっかけ作りに
- ・ 授業の振り返り登録で学びの記録を蓄積
日常的なキーボード操作練習の機会も創出

効果

- ・ 天気や振り返りから、自分を客観視しコントロールする力（非認知スキル）を向上させ、「学びに向かう力」を育み

利用環境

Webアプリケーション (3OSすべてに対応)

利用料

- ・ 児童生徒1人 月額180円 (税抜)

■ 学校等教育機関の抱える課題

想定される学校が抱える課題

- ・ 1人1台端末を日常的に活用できていない
- ・ 児童生徒の気持ちや授業の反応を収集できていない
- ・ 学びに向かう力育成の良い手立てがわからない



スクールライフノートの特長

- ・ 朝、帰りの活用で毎日の端末活用に貢献
- ・ かんたん操作で小学校低学年でもすぐ利用可能
- ・ 心の天気で気持ちの変化に応じた声かけができる
- ・ 学びの天気で学びの様子が把握し授業改善に活用
- ・ 振り返りから自己を客観視するメタ認知を育成



かんたん操作と
毎日利用で
端末活用を促進

心/学びの天気・振り返り
が生徒指導や教科指導
の新たな基礎情報に

振り返りを軸にした
学びに向かう力の
育成

○利用校における活用事例

・心の天気

朝の会・帰りの会で「朝」「帰り」の「心の天気」を登録

- 多くの学校が朝・帰りの準備ができたなら端末を自分で起動して登録する
低学年は「グループログイン」を使って教師用端末から登録するクラスも
朝の天気登録後は端末を保管庫に戻さず、そのまま授業に利用するケースが多い



・学びの天気、学習ノート（振り返り）

授業終盤のまとめ後にその授業の天気と振り返りを登録する

- 振り返りは低学年は筆記入力、中学年以降はキーボード入力に登録している
時間がない場合は天気の登録のみ、文字入力が難しい場合はノートに書かせるなど
状況に合わせた運用も見られた



多くの学校で、朝・帰りの「心の天気」の登録をきっかけにシステムを活用

○具体的な活用事例・エピソード

事例① 校内で足並みをそろえて活用、端末の日常的な活用が拡大

毎朝のルーティンに「心の天気」を追加、毎朝1人1台端末が確実に使われるように。そこから授業での端末活用も少しずつ増加し、「心の天気」が端末活用のきっかけになった。

事例② 子どもの気持ちをとらえやすくなり、より変化をとらえた声かけができた

見た目では気づかなかった子どもの内面を天気から知ることができた。「雨」が続いた子どもに声かけをしたところ、子どものトラブルに未然に察知でき、早期対応ができた。

事例③ 天気が校内の共通言語に、担任・保健室・管理職で子どもたちを見守る取組が強化

天気を話題にした会話が多くなり、「そういえば心の天気雨だったな。少し話聞いてあげて。」などの情報共有で、保健室来室の手がかりがわかるようになり子どもへの声かけもしやすくなった。

事例④ 分散登校時の家庭での様子や不登校傾向の子どもの様子を把握することができた

端末持ち帰り家で入力した天気や振り返りから学校に来ていないときの様子を把握することができた。

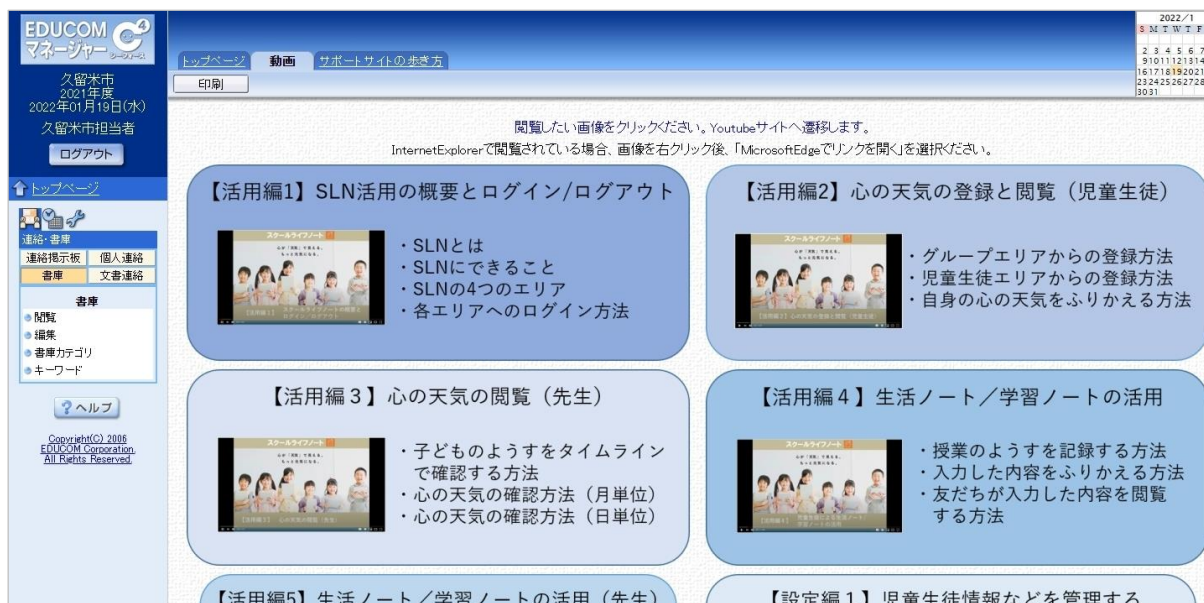
「心の天気」の情報が、子どもの気持ちを理解するツールになっている、という反響が多くあります

■ 補助事業において実施したサポート内容

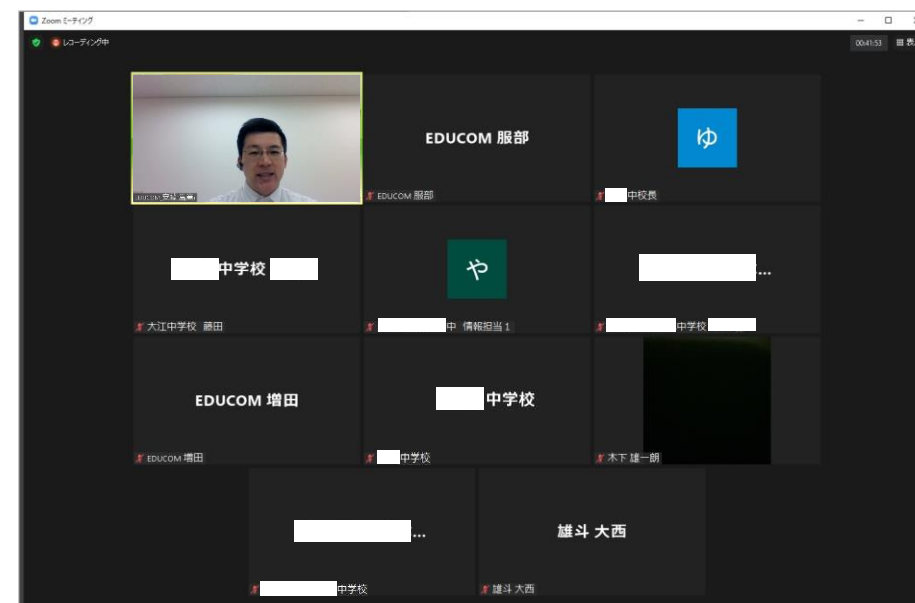
○実施したサポート内容

・：通常のサポート、★：EdTech特別の対応

- ・ 初期設定支援 教職員情報および児童生徒情報の登録や各種初期設定作業
- ・ 教職員向けヘルプデスク コールセンターによるシステムの操作や活用方法の問合せ対応
- ★ サポートサイト開設 研修動画や操作マニュアル、活用事例資料等の提供
- ・ 学校向け導入ガイダンス システム概要や基本操作の説明、活用事例の共有（オンライン・各校1回）
- ・ 教育委員会向けガイダンス システム概要や基本操作の説明、活用事例の共有（オンライン・自治体1回）



サポートサイト（動画マニュアル部分）



学校向けガイダンス（オンライン）

※サポート体制 主担当2名・自治体担当9名、電話問合せは弊社ヘルプデスクにて受付および対応

○活用効果の分析と考察

・活用効果

鳥羽市・和気町ともに2021年12月時点で継続的な活用には至らず、活用効果が出る段階まで利用が進んでいない（学校によっては一部のクラスでしか利用されていないケースも見られた）。

・活用に至らなかった要因

製品の価値を認識してもらえたがそれを自治体内・校内に広める推進体制が確立できなかった
教育委員会による自治体全体への旗振りや校内担当者による旗振りが不足していた

行事が多く多忙感が強い2学期からの導入に否定的な意見が見られた

年度当初に想定していない取組が差し込まれることへの抵抗感

→ 自治体内・校内の情報伝達や価値の横展開を促進する旗振り役の欠如（体制的な課題）

年度途中かつ多忙なタイミングでの導入による負担感（時期的な課題）

○現場からのコメントや感想

- ・操作が簡単なのですぐにでも使えそう
- ・ドリルとは異なる切り口で、生徒指導への活用が期待できそう
- ・授業の感想が把握しやすくなるので次の授業の参考にしながら授業を検討できそう
- ・中学生がまじめに天気を入れるか疑問
- ・天気が気持ちを表しているかわからないので、登録させても意味が無いように思う
- ・年度途中から使い始めるのは今までの取組を変える必要があるのでハードルが高そう
- ・2学期は行事が多いので落ち着いて使う場面が少ない

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

○活用に至らなかった要因（現場の声をもとに考察）

■体制的な課題

- ・一部の学校での利用であったため、教育委員会としての旗振りが難しかった
- ・各校の担当が英語科教員だったため、教科外での利用も含まれるスクールライフノートの活用を啓発・促進していくのが難しかった

■時期的な課題

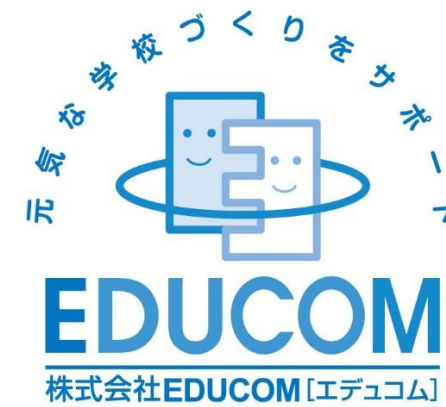
- ・年度途中からの活用になったため、足並みがそろえにくかった
- ・朝・帰りの利用にあたって、クラスごとにすでに流れ・やることが決まってスムーズに動いている中に途中から取組を追加することへの抵抗感があった

○改善策

- ・1月より利用したい学校に対しての追加研修の実施（情報担当や管理職に参加を働きかける）
- ・各機能の利用モデル資料の精度向上（朝・帰りの活用を具体的な動きまで示した内容にする、など）
- ・自治体内および校内での啓発資料の作成（活用の価値や効果を全体に周知し理解を深めてもらう）

■ 会社概要

- ・ 会社名 株式会社EDUCOM
- ・ 代表者 柳瀬 貴夫 代表取締役CEO（最高経営責任者）
- ・ 所在地 愛知本社 愛知県春日井市如意申町7-7-5
東京本社 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング
- ・ 創業 1989（平成元）年4月
- ・ 資本金 3300万円
- ・ 従業員数 257名（2021年7月時点）
- ・ 事業内容
 - 1 パーソナルコンピューター通信、情報通信システムの設計、企画、施工
 - 2 コンピューターとその関連機器及びソフトウェアの開発、販売並びに情報処理・提供に関する事業
 - 3 パーソナルコンピューターのソフトウェアの保守、管理並びに技術の指導業務
 - 4 コンピューター技術教室、文化教室の経営
 - 5 コンピューターのプログラムの作成
 - 6 コンピューターのソフトウェア設計・プログラム開発及び技術提供並びに保守に関する業務
 - 7 地図データベース、その他データベースの作成・販売、コンピューターによる処理業務
 - 8 コンピューターシステムを利用した情報ネットワークによる情報処理並びに情報提供業務
 - 9 上記各号に付帯関連する一切の業務
- ・ ホームページ <https://www.educom.co.jp/>
- ・ 問い合わせ先 会社ホームページ上部「資料請求」の問合せフォームよりご連絡ください



○EdTech導入補助金2021活用による成果

- ・ これまで取引が無かった自治体との出会いの創出
NTTドコモ社経由でこれまで縁の無かった自治体と関係を持つことができ、新たなビジネスチャンスが創出された
- ・ 新たなサポート方法の検討の場としての活用
本実証で新たなに製品サポートサイトを利用した利用自治体・学校へのサポートを実施することができ、その効果や課題を洗い出すことができた。

○EdTech導入補助金2021活用による課題

- ・ 実施時期に合わせた活用プランの立案
年度途中からの利用に対応した活用プランや支援策が必要になることが明確になった